



# 全国の医療施設\*が利用できる 薬剤耐性(AMR)対策のための プラットフォーム ジェイサイフ J-SIPHE 公開

## 4月本稼働スタート! 参加医療施設 大募集

昨今、抗菌薬が効かない細菌として話題となっている薬剤耐性菌に対し、多くの医療機関で抗菌薬使用量や薬剤耐性菌の検出、自施設の状況の見直しや、施設間の情報共有、地域における薬剤耐性対策に向けた取り組みが活発に行われるようになってきました。

今年1月15日に一部運用を開始し、4月にすべての機能を搭載し、満を持して稼働する感染対策連携共通プラットフォーム「J-SIPHE」は、全国の医療施設が共通の評価指標を用いて利用できるサポートシステムです。AMR臨床リファレンスセンターは、このシステムの開発を構築すると共に、このデータを活用した薬剤耐性対策の推進を行っています。

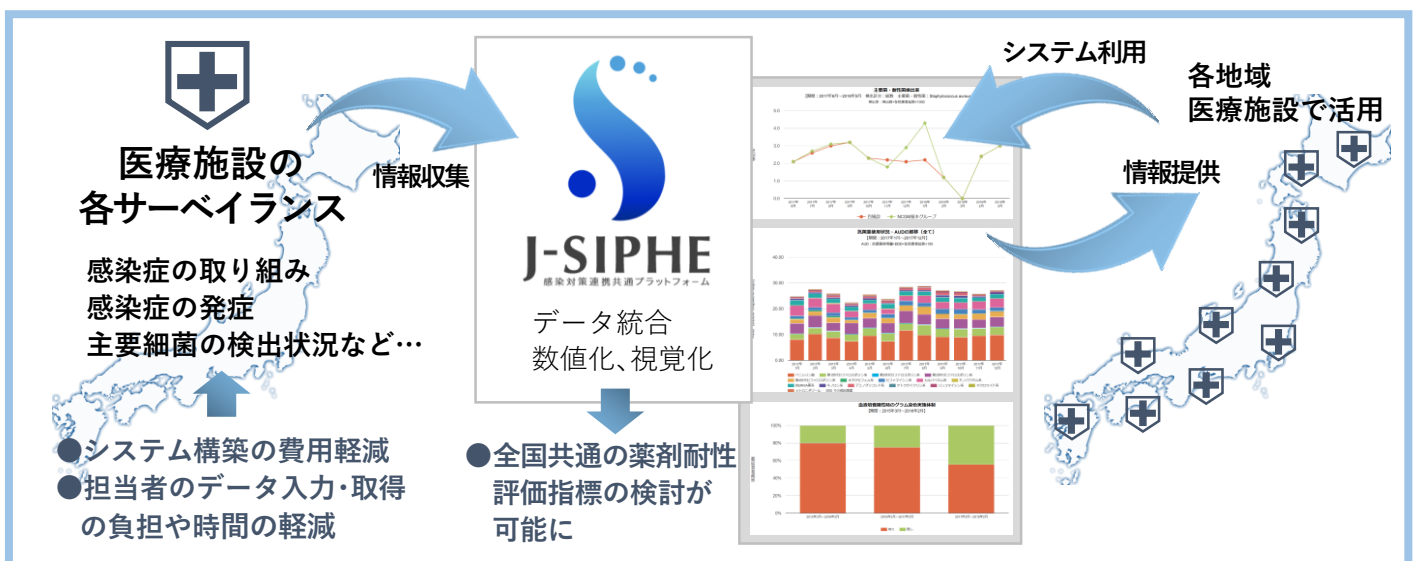
\* 薬剤耐性(AMR: Antimicrobial resistance)とは: 病原体が変化して耐性をもち抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです

### ■ 医療施設による J-SIPHEの活用

参加する医療施設はアプリケーションソフトを使って、自施設にて参加登録を行います。感染症診療状況、感染対策、抗菌薬適正使用への取り組み、医療関連感染の発生状況、主要な細菌、薬剤耐性菌の発生状況、抗菌薬使用等に関する情報を入力します。入力情報は施設内での経時変化や他の医療施設との比較をグラフなどでわかりやすく見ることができ、地域の医療施設間のネットワークによる感染対策・薬剤耐性対策の推進にも活用できます。

J-SIPHEを活用することで 全国共通の薬剤耐性における評価指標の検討を可能とし、各医療施設でのシステム構築の費用軽減、担当者のデータ入力・取得の負担や時間の軽減が可能になります。また、多くの医療施設が参加することにより、国内の薬剤耐性対策の現状が把握できるだけでなく、より効率的な取り組みへとつなげていくことができます。

\*本システムでは病床を持つ医療施設(病院、有床診療所)を対象としています



<https://j-siphe.ncgm.go.jp/home>

●J-SIPHEのサイトは一般公開ページと医療施設専用ページの2種類があります



一般公開用

参加施設数や年報などの公開情報をどなたでも閲覧できます。



医療施設専用ページへ

医療施設専用

登録してデータを入力するとグラフによる比較機能やテーブル表示、条件検索ができます。  
\* 病床を持つ医療施設専用サイトのため、一般の方は本システムを利用することはできません。



▲手指衛生遵守率を比較



▲抗菌薬使用状況を把握



▲院内の薬剤耐性菌発生状況をモニタリング

開発の背景

抗菌薬の不適切な服用に因る薬剤耐性菌の増加を危惧し、WHO(世界保健機関)では2015年に「薬剤耐性(AMR)に関するグローバル・アクション・プラン」を採択し、日本でも2016年に「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン」を策定し、各分野における目標を掲げました。AMR臨床リファレンスセンターはアクションプランの取り組みを推進するため、2017年 厚労省委託事業として設立され、その事業のひとつとして抗菌薬使用量や適正使用推進活動に関する医療関連のサーベイランスの枠組みを構築してきました。

データ統合の基盤を形づくり、あらゆる医療施設での情報を有機的に共有し、有効活用するためのシステム J-SIPHE (感染対策連携共通プラットフォーム) を開発・構築いたしました。